

第十五回 日口知事会議の概要

全国知事会代表団がロシアを訪問

全国知事会事務局

日口知事会議は、昭和四十三年に第一回の日ソ知事会議を東京で開催して以来、平成九年にモスクワ市で第十四回を開催するまで、日本とロシアを相互訪問する形で行われてきましたが、ロシア側の都合により、休止した状態となっていました。

その後、平成二十一年五月のプーチン首相の訪日にあわせて、ロシア連邦構成主体の長が訪日をし、日本の知事と日口の地域間交流について意見交換を行いたいという申し出があり、それを受けて、同年五月十二日、プーチン首相も冒頭ご出席をいただく中、日口知事意見交換会が開催されました。

この日口知事意見交換会では、今後の日口の地域間の交流のため休止している日口知事会議を再開すべきとすることで意見が一致し、共同声明として取りまとめました。それを受けて本年五月二日にモスクワにおいて、日本側からは麻生会長を始め八都道府県の知事及び副知事、ロシア側からはルシコフ・モスクワ市長を始め十名の知事、ロシア連邦政府からフリステンコ産業貿易大臣が出席され、第十五回日口知事会議が開催されました。

この会議では極東シベリア開発に合わせ、日口両国間の経済交流を積極的に展開していくために、招聘・渡航手続きや通関手続きの迅速化・簡素化、定

期航空路・貨客船航路の推進、そして極東地域のみならずヨーロッパにつながるロシア西部との経済交流の足となる定期貨客船とシベリア鉄道との連携など具体的な意見のやり取りが行われました。

また、ハイテク・省エネルギーの技術交流、燃料エネルギー複合施設の開発等エネルギー関係、大学間交流の一層の推進、観光のためのインフラ整備や交通網の開設、問題解決のためのホットライン設置など、多くの提案がなされました。

この日口知事会議では、今回取り上げられた提案とその実現に向けて、両国政府にそれぞれ要請していくことを取り決め、共同声明として取りまとめ第十五回日口知事会議は終了いたしました。

当日は、日口知事会議だけでなくサハリン州、ハバロフスク州の知事と日本側知事の個別会談も行われ、参加した都道県独自の交流も積極的に行われました。

今回のロシア訪問では、三名の政府要人、地方発展省のトラヴニコフ次官、外務省のボロダフキン次官、中小企業発展政府委員会副議長でもある「ロシアの柱」のボリソフ会長とそれぞれ一時間以上にわたる意見交換が行われました。

また、地方視察には二〇一二年にAPECの開催

日口知事会議に出席した両国の知事



が決定されている極東開発の中心地であるウラジオストク市を訪問し、ダリキン沿海地方知事との意見交換や懇談会、APEC関連施設の洋上視察、地元産業界の方々との懇談など、短い時間ではありましたが、実りある地方視察となりました。

帰国日には、極東におけるもっとも古い大学の一つである極東工科大学を訪問し、学長を始め教授陣と研究とその成果、大学運営等について意見交換を行ったのち、日本語学科の学生との懇談を行い、五泊六日のロシア連邦訪問を終了いたしました。

全国知事会訪口代表団の概要は、次のとおりです。

一 第十五次全国知事会ロシア連邦訪問代表団名簿

団 長	麻生 渡	福岡県知事
団 員	高橋 はるみ	北海道知事
	佐竹 敬久	秋田県知事
	吉村 美栄子	山形県知事
	泉田 裕彦	新潟県知事
	石井 隆一	富山県知事
	平井 伸治	鳥取県知事
	村山 寛司	東京都副知事
秘書長	中川 浩明	全国知事会事務総長

二 訪口日程

五月一日(土) 午前 ロシア連邦モスクワ市へ出発
到着後、在ロシア日本大使館でのブリーフィング

五月二日(日) 午前 サハリン州、ハバロフスク州
知事との個別会談
正午 第十五回日口知事会議
終了後、ルシコフモスクワ市長と麻生会長との記者会見

五月三日(月) 午前 モスクワ大学訪問
桜の植樹及び記念式典
午後 要人との面談

五月四日(火) 午前 地方発展省トラヴニコフ次官
ポリソフ「ロシアの柱」会長
外務省ポロダフキン次官
午後 沿海地方ウラジオストク市へ
出発

五月五日(水) 午前 ウラジオストク市へ到着

APEC 関連施設の洋上視察
ダリキン知事との意見交換及び懇談会

沿海地方政府、ウラジオストク市、ナホトカ市、地元産業界との懇談会

五月六日(木) 午前 極東工科大学訪問
午後 帰国

三 面談の概要

(一) 要人との面談

五月四日代表団は、地方発展省のトラヴニコフ次官と面談を行いました。トラヴニコフ次官からは、日口間の貿易・経済関係の進化に向けた具体的な両国の動きと対策や、七月ごろに決定されるロシア政府の極東開発計画のアクションプランや日本の都道府県に向けたプレゼンの計画などについて説明があり、日本側からも経済的な交流の具体的な取組みや提案がなされ、これからの両国の地域間交流について意見交換を行いました。

次に、ポリソフ「ロシアの柱」会長との面談が行われました。

ポリソフ会長からは、ロシアの中小企業問題についてまだ発展段階にあり、政府による中小企業対策の強化が必要であると考えていること、また、政府を説得し全省庁に中小企業政策を扱う部局ができ、資金手当の拡大なども行われていることなど説明がありました。

また、日口間では地域間交流分科会等と緊密な連携をとりながら活動していくことが可能だと考えて

日口知事会議の様子



おり、日本の中小企業の進出は歓迎しており、必要な支援を行いたいとの意見が出されました。

日本側からは中小企業に対する支援策と経済改革の方向性、それぞれのプロジェクトや発展計画がどうなっているのかというような情報をできるだけ迅速に正確に教えてほしいと要望しました。

最後に、代表団は外務省のポロダフキン次官と面談を行いました。ポロダフキン次官は、まず冒頭で領土問題について次のとおり意見を述べられました。「ロシア外務省は日本側と同じく、古く、ソビエ

ト時代から残った問題の解決のためにできる限り努力したいと思う。ロシアと日本の間には、さまざまなレベルで、首脳レベルでもそういう問題を解決するためのさまざまな話し合いの場が開催されている。しかし、残念ながら、我々と日本との意見の隔たりはかなり大きく残っていると思う。それで、今後我々は日本のパートナーと協力してそういう隔たりをできる限り小さくして、さまざまな話し合いの枠内で相互受け入れ可能な解決の方式を探したいと思う。」

続いて、日口の地域間協力については、両国の戦略的パートナーシップを築くため地域間交流は重要な位置にあると考えており、ロシア外務省も積極的に支持していく。また、今後、日口両国は貿易・経済だけでなく省エネルギーや資源の開発・技術などについても協力できると考えている、ひいてはそれが戦略的パートナーシップの確立に貢献するものと思うとの発言がありました。

日本側からは参加した知事からそれぞれの都道府県における具体の交流事例説明があり、また、経済的な交流を行うに当たり日口知事会議で提案のあった、渡航・通関手続きの簡素化・迅速化が不可欠であること、地域間の経済交流のためには大企業だけでなく中小企業の相互交流が重要であり、支援の必要があること、日本に近い極東だけでなくロシア西部まで経済交流を進めるべきであると考え、そのためにはシベリア鉄道の活用が非常に大事であることなど多岐にわたる意見交換が行われました。

(二) 沿海地方ダリキン知事との面談

五月五日はウラジオストク市に到着後、APEC 関連施設を洋上から視察した後、ダリキン知事と意見交換会を行いました。

ダリキン知事からはAPECに向けてウラジオストク市の開発の状況と、沿海地方を含めた極東・シベリア開発の計画の日本と関係の深い石油関連施設や天然ガスパイプラインなどエネルギー関連のプロジェクトや環境対策に関するプロジェクト等について説明がありました。また、水産加工工場の技術協力や日本の自動車工場の開設、日本との新たな定期航路の開発やそれを利用した交流など多くの提案がなされました。

日本側からは極東地区の日本企業との経済協力や具体的な地域間交流について提案がなされました。

北海道からはサハリン州との連携が進んでいること、APECへの関連事業に北海道の企業も一部参加していること、住宅メーカーのモデルハウスをウラジオストク近郊に建設していることなどの報告がありました。

また、山形県からは酒田港を利用した県産品の貿易など、経済交流を拡大するためにハバロフスク国際見本市に職員を派遣し調査を行ったことの報告があり、ダリキン知事からはウラジオストクで行われる国際見本市への参加要請がありました。

秋田県からは観光交流の一環として、秋田県知事が団長として地元産業界の方々を含め八百人の秋田県人が、日本最大の客船「飛鳥II」でウラジオストク市を訪問する交流行事が報告されました。今後、一つひとつ具体的なプログラムを進めていくため、さまざまな形での連絡体制を強化して、相互の発展に結び付けたいとの意向が示されました。そのほかにも秋田県立国際教養大学と極東大学の留学生の交換協定を締結したことなども報告されました。

また当日は、昨年夏にダリキン知事と沿海地方と鳥取県が調整をしていた姉妹都市提携が締結されま

した。そして、鳥取県から、これからは実質的な経済交流を行うということで境港とウラジオストクを結ぶ航路について検討し、昨年七月に実現したことなどが報告されました。現在、この航路を利用した青少年向けの観光商品も開発されたこと、この航路とシベリア鉄道を利用した物流など、今後もお互いに日口の架け橋となるよう活動したいとの意見が出されました。

(三) 大学訪問

①五月三日、モスクワ大学を訪問し、日本とロシアの地方政府代表者による友好と親善の証として、東京都から提供された寒さに強い「千島桜」をモスクワ大学前の雀が丘にルシコフ市長を始め日口知事会議に参加された知事が参加をして植樹を行いました。その後、モスクワ大学構内に移り、学生による歓迎公演が行われ和やかなひとときを過ごしました。

②五月六日、ウラジオストクにおいて極東工科大学を訪問し、現在行われている研究の具体的なテーマと進捗状況について説明が行われ、日本の知事からは研究費の問題や日本との共同研究などについて質問がなされ、闊達な意見交換が行われました。その後、日本語学科の教室に移り、日本語学科の学生が自分の将来や現在の勉強についてプレゼンを行い、短い時間ではありましたが、学生との交流を楽しみました。

第15回日露知事会議共同声明

2010年5月2日、第15回日露知事会議がモスクワにおいて開催された。

この会議には、日本側から以下8名が出席した。

麻生 渡	日本国全国知事会会長、福岡県知事
高橋 はるみ	北海道知事
佐竹 敬久	秋田県知事
吉村 美栄子	山形県知事
泉田 裕彦	新潟県知事
村山 寛司	東京都副知事
石井 隆一	富山県知事
平井 伸治	鳥取県知事

ロシア側からは以下10名が出席した。

ユーリ・ルシコフ	ロシア21世紀委員会議長、モスクワ市長
ヴィクトル・クレス	トムスク州知事
オレグ・コロリョフ	リベツク州知事
セルゲイ・ヴァフルコフ	ヤロスラヴリ州知事
アナトリー・アルタモノフ	カルーガ州知事
ヴァチエスラフ・シュポルト	ハバロフスク地方知事
イーゴリ・スリュニャエフ	コストロマ州知事
アレクサンドル・ホロシャヴィン	サハリン州知事
アレクセイ・クジミツキー	カムチャツカ地方知事
ゲオルギー・ボース	カリーニングラード州知事

両国においては、友好親善関係の増進と経済・貿易関係の発展をめざし、過去1968年から1997年まで14回にわたり日露知事会議を開催してきた。

その後、2009年5月12日の日露知事意見交換会において、今後、両国地方政府代表者による多面的な協力体制や日本・ロシアの相互理解と協調関係を築いていくためには、継続した対話を重ねることが最も重要であることを確認し合い、休止状態にあった日露知事会議の再開を決定したものである。

これにより、本日、モスクワ市において日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の地方政府代表者が一堂に会し、友好親善の発展はもとより、両国間の経済交流をはじめ、環境、エネルギー、観光、科学技術等の地域間交流の実態と望ましい交流のあり方、活性化方策について率直に意見交換を行った。

この会議の開催に当たっては、日本側から河野駐ロシア特命全権大使が、ロシア側からフリステンコ産業貿易大臣が出席し、それぞれ鳩山内閣総理大臣、メドヴェージェフ大統領のメッセージを読み上げた。

会議において、日本側参加者は、本格化するロシア極東・シベリア地域の開発に合わせ日露間の経済交流の活性化と拡大を図るため、両国での招聘・渡航手続の簡素化、通関手続の簡素化・迅速化、定期航空路線・定期貨客船等の利用促進、中小企業の進出支援などの取り組みが重要であることを提案した。

また日露経済交流をロシア西部にも進めるため、日露間の定期貨客船とシベリア鉄道を結ぶ物流ルートを確立した上で同鉄道の定時性・迅速性の向上を図ること、さらには経済発展に伴う環境問題への対処と地球環境問題の解決に向けた地域間の技術交流の促進が重要であることを提案した。

ロシア側参加者からは、緊急度の高い具体的な課題の解決を図るため、日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の代表者との間にホットラインを設置することについて提案があった。

また、ハイテク・省エネルギーに関する技術交流、ロシア極東・シベリア地域における燃料エネルギー複合施設の開発と住宅の建設、農作物・漁業資源の加工、観光・交通インフラの開発、日露地域間の交流範囲の拡大、観光発展のためのカムチャツカ地方と日本の都道府県との間の定期航空路線と定期貨客船の開設、大学間交流の一層の推進等の分野における協力について提案があった。

これら両国地方政府代表者の提案は極めて有益なものであり、両国地方政府はその実現に向けて努力し、それぞれ中央政府に対し要請していくことを合意した。

日露双方の参加者は、平和条約の問題に関し相互で受け入れ可能な解決を目的とした対話の継続についての日露首脳の方針を支持した。

会議の内容について、我々は大変満足できるものであったと評価する。

2012年にはウラジオストクでAPEC首脳会議が開催される予定である。ロシア極東・シベリア地域の発展は、今後、両国の発展にとって、大きな影響を及ぼすものであり、APEC首脳会議の成功と大きな成果を期待している。

最後に、次回の日露知事会議を2011年に日本において開催することを決定した。

2010年5月2日

日本側代表团団長
全国知事会会長
福岡県知事
麻生 渡

ロシア側代表团団長
ロシア21世紀委員会議長
モスクワ市長
ユーリ・ルシコフ